

視野検査

視野検査とは、見える範囲と網膜の感度を調べる検査です。

視野検査の中には、主に視野の広さをみるもの、主に網膜の感度をみるもの、主に中心の細かい歪みをみるものなど、目的に合わせて何種類もあります。

視野検査でわかること

- ・ 緑内障
- ・ 視神経疾患
- ・ 脳腫瘍
- ・ 網膜疾患

まっすぐ見たまま周りがどれだけ見えているか、視力が出る部分以外の網膜の感度の低下などわかります。

視野は視力と違って自覚症状があまりありません。また、片方の視野が欠けていてももう一方の目で補うため、末期まで気がつかないこともあります。そのため、視野検査を勧められた場合は、受けた方がいいです。

健康診断の結果に、「緑内障疑い」「乳頭陥凹」「cupping プラス」と書いてあった方は視野検査の対象です。

緑内障の診断・経過観察に欠かせません。

緑内障は視神経の障害がゆっくり起こり、視野も少しずつ進みます。眼底検査やOCT検査で緑内障疑いであれば、視野検査をし、確定診断となります。その後、定期的に視野検査をすることで、治療効果を診ていきます。

検査方法

- ・ 片眼ずつ検査をするため、片眼を隠します。
- ・ 暗室に設置してある視野計の器械に顎を載せます。
- ・ 検査する方の目でまっすぐ見てもらいます。
- ・ ランダムに光をだし、見えたところで応答ボタンを押してもらいます。
- ・ 光の明るさを変えて、感度も調べます。

検査時間は、視野検査の種類や年齢、視野欠損の具合によりますが、片眼 5 分から 15 分です。

